



PHOTO:石川倉治胸像&鶴舞神社

**INFORMATION**

■小学校教師として活躍

石川倉次は1859(安政6)年静岡県浜松市に生まれ、明治維新後、1869(明治2)年、上総国鶴舞(かずさのくににつるまい)(現市原市)に浜松藩士であった父専七の主君である井上正直の国替えにともない、移り住みました。16歳のとき、鶴舞小学校を主席で卒業。すぐに母校の助教師に採用されました。その後、千葉師範学校(現千葉大学教育学部)で学び、浜田小学校(現千葉市立幕張小学校)、長柄郡茂原小学校(現茂原市立茂原小学校)などで教師を務めました。



■日本点字を考案

国語・国字の研究を続けていた倉次は、27歳の時、官立東京訓盲啞院(くんもうあいん)(視覚障害者などの教育機関。現筑波大学附属視覚特別支援学校)の小西信八(こにしのぶはち)に招かれ、同院の教員に転じます。当時の視覚障害者向けの文字は使いにくかったため、倉次はフランスのルイ・ブライユが考案した2列3点の6つの点で文字を表す6点点字を日本語向けに作り直すことを決意。3年後の1890(明治23)年に完成させました。これが同年11月1日の選定会で日本の点字に選ばれ、後にこの日は点字記念日となりました。

■点字の普及に尽力(日本点字の父)

その後、視覚障害者がいつでも文字を書ける懐中点字器や、石川式点字タイプライターを発表。1907(明治40)年、点字の全てを完成させるなど、点字の普及に尽力しました。

倉次は1944(昭和19)年に亡くなりましたが、彼が考案した日本点字は、現在でも視覚障害者の方々を支えています。(参照資料 ちば県民だより 2017年12月5日号)

● 数学活用：点字のしくみ ●

6月26日(金)の2時間目に3年DEF組の生徒たちは選択科目「数学活用」で、『点字のしくみ』について学習しました。この単元では、点字の6つの点の位置の違いで文字を表すしくみについての学習します。授業担当の南教諭は、生徒に本時間の学習目標として4つ(見つける・読む・表す・求める)をあげ、説明しながら授業をわかりやすく展開しました。

- ① 見つける → 校舎内で点字のある場所をさがしてみる
- ② 読む → 教科書に載っている点字50音表を使い読む
- ③ 表す → 点字の6つの点の表し方を学ぶ
- ④ 求める → 点字の組み合わせを求める

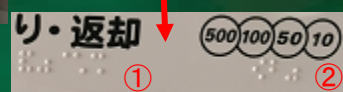
また、フランスのルイ・ブライユが考案した2列3点の6つの点で文字を表す6点点字を日本語向けに作り直し日本点字の普及に努めた人物として、石川倉治を紹介しました。石川倉治は、隣町鶴舞に明治時代初期に、浜松藩士であった父親の主君の国替えにともない上総国鶴舞に移り住み、藩校・克明館(現市原市立鶴舞小学校)で、12歳から16歳までの間学び、やがて点字タイプライターを発表するなど「日本点字の父」と呼ばれるようになったこと、胸像が市原市鶴舞の鶴舞神社にあることを紹介しました。



学校内ある点字の1例



福祉トイレ(本校呼称)で点字を探す生徒



今日の学習内容と日本点字の父と呼ばれる石川倉治が十代の前半に鶴舞の地で学んでいた身近な歴史的な人物として知ること、点字に関心を持ち、まずは、触れて読んでみたらどうでしょうか。